

## 一般市民を対象としたマスメディアや生涯学習を通じた方言教育 —石川県・福井県における実践事例から—

加藤 和夫<sup>1</sup>

### 1. 一般市民を対象とした活動の動機

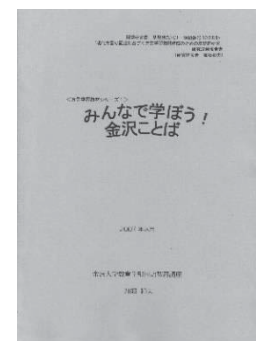
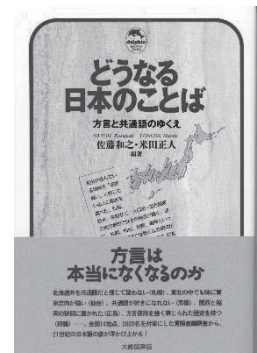
発表者は、自身が同じ北陸地方の福井県出身であることを含め、1991年に金沢大学着任当初から、金沢を含む北陸地方全般の傾向として、地方の観光地によく見られるような方言による観光キャッチコピーや方言土産など少なさを意識するようになり、そのことと北陸人の方言意識の関連に関心を持つようになっていた。

1994年には1月から12月まで地元の「北國新聞」朝刊の金沢面で連載された「頑張りまっし金沢ことば」の監修を依頼され、様々な観点から担当記者と金沢方言の現在について考える機会を得るとともに、同時期に佐藤和之・米田正人両氏と大修館書店の企画による全国14地点での方言意識調査に参加する機会を得た(発表者は金沢市を担当)ことで、改めて北陸人の方言意識に対する関心が高まった。方言意識調査の結果と調査担当者による分析は、後に『変容する日本の方言』、『どうなる日本のことば』として刊行され、発表者も加藤(2003)などを著した。

そして、上記の新聞連載や方言意識調査の結果を通じて明らかとなった、北陸人の方言コンプレックスの根強さに対して、方言研究者として何かできることはないかと考えるようにもなった。

当時、発表者は教育学部で国語教師養成に関わっていたこともあり、まずは小中学生に方言について興味を持って学んでもらえるような方言教材が必要と考え、小学校高学年から中学生を対象として教師に利用してもらえればと石川県加賀地方の3地点の方言を取り上げた3種類の方言教材を作成した(『みんなで学ぼう!金沢ことば』、『みんなで学ぼう!鶴来ことば』、『みんなで学ぼう!大聖寺ことば』)。

しかし、上記方言教材は、現場教員の方言に対する関心の低さと、多忙化する学校現場において教科書を離れてこの種の内容を扱う余裕のなさから、利用されることはあまりなく(皮肉なことに、地方在住の



<sup>1</sup> かつう かずお (金沢大学) kkatoh@ed.kanazawa-u.ac.jp

外国人に日本語を教えている日本語教師が利用してくれるケースの方が多かった),その後,発表者の方言に関する啓蒙活動,教育活動の対象は,児童・生徒から高年層を中心とした社会人へと移っていくこととなった。根強い方言コンプレックスに起因する方言使用の忌避,北陸で方言調査をしていて話者から聞くことが多い「家で方言をしゃべると,息子や嫁から,孫の前でわけのわからん方言しゃべらん」といって,とやわられて,普段家では方言を話したくても話せん」といった告白から想像される,家庭内での方言使用の制限という事実を知る中で,祖父母,親世代の一般市民に方言について正しい知識を持ってもらい,方言への偏見や誤解を解く活動も方言研究者として求められているのではないかと考えるようになったためである。

本発表では,発表者がこの25年余りの間に石川県・福井県内で関わってきた,一般市民を対象とした方言に関する啓蒙活動,教育活動の実践事例を,特に多く関わってきているマスメディア関係の実践事例を中心にジャンル別に紹介することで,方言研究者がどのような形で地域の人々に方言の価値や役割を伝えていけるか,伝えていくべきかについて考える機会としたい。

## 2. マスメディアを通じた方言教育

### 2.1 新聞連載

- ・「頑張りまっし金沢ことば」(監修「北國新聞」連載,1994.1~12)1995年に『頑張りまっし金沢ことば』として刊行  
写真は2005年刊行の改訂版『新 頑張りまっし金沢ことば』
- ・「マジ やばっ 方言学」「マチかど方言学」(監修「北國新聞」連載,2013.1~2014.12,週1回で通算101回)
- ・「ほやほや 福井の方言」(協力「福井新聞」2006.1~4)
- ・「知ってます?福井の方言」(執筆「福井新聞」2012.10~12) など

### 2.2 地方自治体広報誌での連載

- ・「みまっし,きくまっし小松の方言」(「広報こまつ」1998.4~2017.3,19年間の連載,2017年3月に総集編が小松市から刊行)
- ・「シリーズ 坂口ことば」(季刊「夢 navi さかのくち」No.23~,2006.1~現在,福井県越前市坂口公民館)

### 2.3 テレビ,ラジオ出演と番組監修など



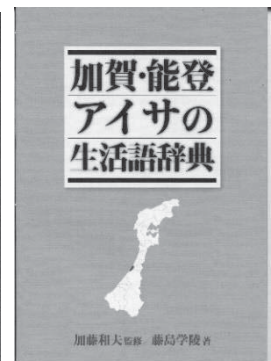
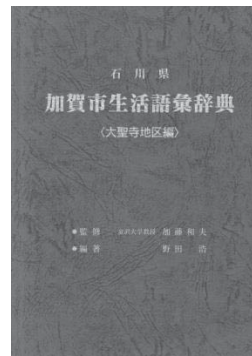
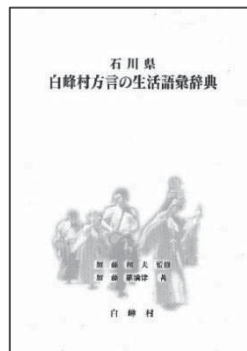
- ・MRO 北陸放送ラジオ「今日もシャキっと」(軽妙卓説)レギュラーコメンター(2003. 4～2010. 3)
  - ・同ラジオ「げつきんワイド!おいね★どいね」,「角野達洋のあさダッシュ!」(ねたのたね)レギュラーコメンター(2010. 4～現在)
  - ・同ラジオ「GOGO は本多町」方言コーナー(典子のそこやとこ)監修(2004. 11～2011. 3の週1回, 6年5ヶ月放送)前半ではジャンル別の方言をテーマに様々な方言を, 後半では方言会話, 方言川柳, 方言替え歌などをリスナーから募り, そこに登場する方言について加藤が解説を加えた。
  - ・北國総研のふるさと講座 第14回「頑張りまっし金沢ことば」(金沢ケーブルテレビで放映)出演
  - ・石川テレビ「リフレッシュ」方言クイズコーナー監修(2013. 4～12)
- 以上のほか, 方言に関するテレビ, ラジオ番組への出演, 協力多数

### 3. その他

#### 3.1 地域の人たちの方言辞典, 方言集作成の監修, 助言

- ・監修: 加藤和夫監修, 加藤継満津著(2005)『石川県 白峰村方言の生活語彙辞典』白峰村, 加藤和夫監修, 野田浩編著(2007)『石川県 加賀市生活語彙辞典<大聖寺地区編>』自家版, 加藤和夫監修, 野田浩編著(2012)『石川県 続加賀市生活語彙辞典<続加賀市の方言>』, 加藤和夫監修, 藤島学陵著(2016)『加賀・能登アイサの生活語彙辞典』

- ・作成助言: 林中公民館(2009)『林中の人と文化(第21集)』, 辰口町ふるさと研究会編(2003)『たつのくち 村ことば百景』など



#### 3.2 観光ボランティアガイド養成講座での講義

金沢ボランティア大学校<観光コース>で1999年から現在まで, 毎年1回, 観光への方言活用の意義や期待される効果について講義

#### 3.3 金沢市観光協会ウェブサイト「5分でわかる金沢の魅力」<金沢ことば>作成

<http://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/feature/kanazawa/kotoba.html>

### 3.4 金沢経済同友会会員への講演と会誌での提言

- ・2010年6月の講演「金沢弁のまちづくり—方言を活かすために—」など
- ・加藤和夫(2014)「〈街の考現学〉言語景観としての方言活用のススメ」『金沢経済同友』会報 Vol. 111, 金沢経済同友会

### 3.5 金沢アートグミ・金沢のしきたり展

#### 「金沢ことば」(金沢ことば展覧会)

(2015. 1. 17~30)

加藤の監修の下、「言語景観」として金沢ことばを活用して制作された賞品や街中広告を集めた展示会を開催。約半月の期間中、会場では商品展示のほか、加藤が解説書を執筆した金沢市教育委員会制作「ビデオ 金沢ことば」(3巻)の上映。加藤の「方言が見える街・金沢」と題する講演会も開催。



加藤が解説書を執筆した金沢市教育委員会制作「ビデオ 金沢ことば」(3巻)の上映。加藤の「方言が見える街・金沢」と題する講演会も開催。

### 3.6 金沢大学地域連携推進センター・一般市民向け 金沢大学公開「e」講座「金沢方言の成立と今」の映像教材の講師担当 (2016)

<https://open-learning.crc.kanazawa-u.ac.jp/open-e-course/course/cat3.html>

### 3.7 一般市民向け講座の担当

石川、福井両県での各種講座で、年に10件程度の方言に関する講演を担当

## 4. 活動の成果

この20年あまりで、石川・福井両県での一般の人の方言に対する考え方が上向いてきており、特に石川県では、金沢を中心として新幹線開業前後から地方らしさをアピールするための方言活用の事例が急増している。

※加藤はこれら一連の活動により、平成23(2011)年度 第32回金沢市文化活動賞を受賞

#### 【参考文献】

加藤和夫(2003)「北陸人の方言意識を探る—コンプレックスからの脱却をめざして—」, 『北國文華』第15号, pp. 139-148, 北國新聞社

加藤和夫監修(2005)『新 頑張りまっし金沢ことば』, 北國新聞社(新聞連載の翌年, 1995年に刊行された『頑張りまっし金沢ことば』の改訂版)

言語編集部(1995)「言語」95.11別冊『変容する日本の方言』, 大修館書店

佐藤和之・米田正人編著(1999)『どうなる日本のことば 方言と共通語のゆくえ』, 大修館書店